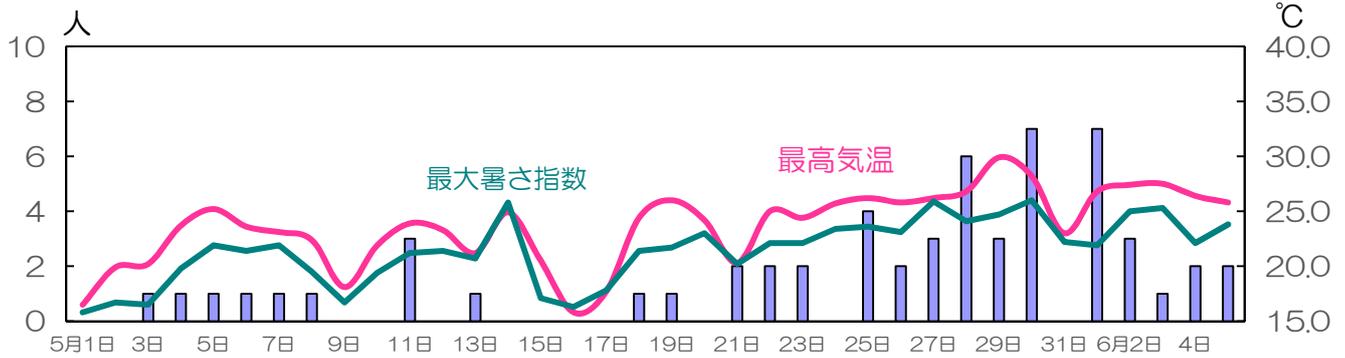


熱中症情報

<搬送数>

令和4年5月1日～6月5日までの搬送数（消防局データを使用）は、計58人（5月43人、6月15人）でした。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



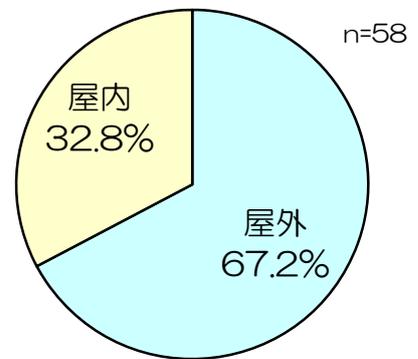
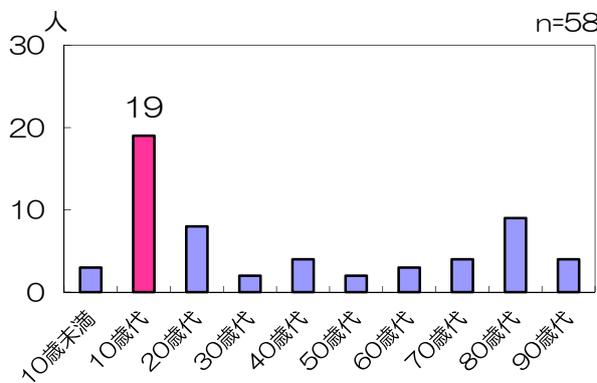
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

10歳代が19人(32.8%)で最も多く、そのうちの17人がスポーツ(部活・体育祭)等、運動競技中の発症でした。

<発生場所>

屋外67.2%、屋内32.8%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症70.7%、中等症27.6%、重症1.7%でした。高齢者(65歳以上)の中等症以上の割合が47.4%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

